

## 実践まとめシート（１年次）

|        |         |            |                              |
|--------|---------|------------|------------------------------|
| 研究グループ | 地域を発見探究 | 実践グループメンバー | 小枝、木村 <sup>亮</sup> 、佐藤、山上、大徳 |
|--------|---------|------------|------------------------------|

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| 実践タイトル  |  |  |  |
| 知的障害を有する中学部生徒の地域探究と学習成果～地域企業によるバスの乗り方教室を通して   |  |  |  |
| <p>I はじめに</p> <p>知的障害者が、自分で行きたい場所を選び、自分の意志で行動できることは、自立した生活を送る上で重要である。自動車を利用する選択肢もあるが、維持費の捻出、交通事故の加害者となる懸念、免許取得の試験の困難などがあり、交通手段として現実的ではない。移動手段としては、徒歩、自転車、送迎サービス等が考えられるが、公共交通を利用できるようになることで、自分の意志で行動できる範囲が拡大することができる。</p> <p>本校中学部では、2015年より、弘南バス(株)及び大野悠貴氏（現NPO法人 まちもびデザイン、モビリティプロモーション）と連携して路線バスの利用方法やマナーを学ぶ『バスの乗り方教室』を開催している。新型コロナウイルス感染症の影響により、実施内容が異なる年もあるが、中学部第1学年で「路線バスの利用方法とマナー」、中学部第2学年、第3学年で「時刻表や料金の調べ方」「お出かけの計画」などを実施してきた。2022年度は、中学部第1学年で「路線バスの利用方法とマナー（座学）」「実車での体験と車庫見学」、中学部第2、第3学年で「おすすめ観光マップを作り」を実施する。</p> <p>本研究では、中学部第1学年を対象とした「路線バスの利用方法とマナー（11月9日実施）」と「実車での体験と車庫見学（11月11日実施）」を分析し、地域と連携したバスの乗り方教室で子供たちが探究する様子から学習成果を明らかにすることで、より効果的な外部講師との実践デザインの示唆を得ることを目的とする。</p> |  |  |  |
| <p>II 対象生徒について</p> <p>対象となる生徒は、中学部第1学年生徒4名（男：3名、女：1名）である。知的障害の他に、自閉症スペクトラム障害や注意欠陥多動性障害を併せ有する生徒が所属する。登下校で路線バスを利用する生徒は所属しておらず、校外学習や家族での外出で教師や保護者と一緒に利用した経験がある。</p>  |  |  |  |
| <p>III 分析の方法と手順</p> <p>この研究を進めるにあたり、「映像分析」「絵画分析」「主観量測定」の3つの手法をとった。</p> <p>まず、「映像分析」は、11月9日の座学時に3台の体制、11月11日の実車と車庫見学時に2台の体制で撮影した。終了後、関係者で見直すとともに、学級担任とともに映像を見返し生徒たちの活動の様子について執筆を進めた。</p> <p>次に、対象生徒が知的障害であり、言語で学習した成果を表現することが難しいことを踏まえ「絵画分析」にて行った。事前（2022年10月24日）、事後①（2022年11月11日体験終了直後）、事後②（2022年12月16日）に『ぼく（わたし）とバス』というテーマで自由画を描く方法で行った。「絵画分析」にはバウムテスト等の手法があるが、本研究においては単純に3回分の絵を比較し違いをリストアップすることで学びの成果を抽出した。</p> <p>さらに、岡崎（2013）の「長さによる置き換え」「容積による置き換え」を参考に、10月26日～12月9日まで、登校時に主観量測定を行った。「長さによる置き換え」では、「バス」、「自動車」、「電車」の3つの乗り物に対しての好意を測定した。「容積による置き換え」では、それら3つの乗り物が対象生徒の気持ちの中での好きな割合を測定した。</p>  |  |  |  |

#### IV 映像分析

「路線バスの利用方法とマナー」(11月9日9:25~10:15 本校音楽室) 正面右に設置したビデオカメラの映像を基に執筆を進める。各活動の時間もそれに基づく。生徒氏名はイニシャルで表記する。

- 1 挨拶、講師自己紹介(01:39) …講師が挨拶をし、自己紹介を始める。K.J.は落ち着かず前や後ろを見ている。
- 2 バスの乗車経験の聞き取り(02:05) …講師からバスの乗車経験を聞かれると、S.A.が挙手し「修学旅行とか」と答える。講師から「乗ったことはない人」という問いかけには、その他の生徒は反応せず。
- 3 バスの種類について(02:34) …講師から、「路線バス」「高速バス」などの種類についての紹介。
- 4 路線バスに乗るときに守ってほしいこと(03:58) …講師が紙芝居形式で路線バスの利用方法とマナーを学習する。「りんごちゃん」というキャラクターが路線バスを利用して、おばあちゃんに会いに行く道程で、時刻表や料金表、利用マナーを学べるストーリーとなっている。「バスの中で走り回っても良いのか？」などというクイズに対して参加する生徒が両手でOかXを出すなどの参加方法をとっていた。
- 5 路線バスの乗車マナーに関する復習(20:22) …講師と一緒に、老人に席を譲るロールプレイをしたり、静かに乗ることなどを確認した。S.A.は、老人役をしていた講師に席を譲った後に、用意した手すりにつかまっており、紙芝居で学習したことを実際にできていた。
- 6 模擬バス体験(27:28) …講師が用意したバスの車窓からの風景を鑑賞したり、整理券、料金箱、つり革や降車ボタンに触れてみた。A.J.は、降車ボタン(電源に接続されていないので音はならない)に興味をもち押してみる。K.J.は、普段は高い位置にあり手の届かないつり革に興味をもち、低い位置に設置されていたつり革を観察し回す様子が見られた。
- 7 降車ボタン探し(29:59) …音楽室内に設置された降車ボタン(6個)を探すゲームを行った。電子黒板の裏の降車ボタンをK.J.が見つけて喜んでいた。
- 8 活動のまとめと挨拶(35:35) …紙芝居で学んだマナーについて復習して、おわりの挨拶をする。
- 9 終了(37:26) …講師にS.A.が「どうしてバスぷら博士をやろうと思ったのですか？」と質問し、講師は、「博士が弘前に引っ越してきたときにバスに乗れなかったので、自分みたいに困る人を少しでも減らしたいからバスぷら博士になった。」と回答していた。S.A.は、うなずきながら「ありがとうございます」と返答していた。その後、バスぷら博士と記念写真を撮影し教室に戻った。

○11月11日(金)

校外での活動であったため、生徒と撮影者の安全に支障をきたさない範囲で映像を撮影した。そのため、動画は4分割されており、全ての活動を撮影できなかった。

- 1 挨拶…活動前に講師と挨拶をした。
- 2 バス停の時刻表の見方…本物のバス停を見て、時刻表の見方を確認した。

#### 動画A(23分51秒)

- 3 路線バスへの乗車(00:00) …バスの乗り方教室用に用意した路線バスに乗車する場面から撮影が始まる。A.J.、S.A.、K.S.、K.J.の順番で乗車する。整理券を取り、運転手に挨拶をして乗り込む。K.J.は、楽しみな気持ちがあふれ「ねえ、運転手さん」と挨拶よりも先に話し掛けていた。整理券を置いて消毒もしていた。
- 4 乗車マナーの確認(02:02) …車庫までの路程で、講師から路線バスの乗車マナーについての確認。バスに乗ったら座席に座ること、座席に座れなかったら手すりやつり革につかまることなど9日に座学で学んだことを紙芝居を見ながら振り返る。S.A.が積極的にマナーについて話したり、K.J.が「もっと近くで見せて」と音楽室での学習時よりも興味を強く示していた。降車の方法を学ぶ場面では、K.S.が代表で車内アナウンスを聞いて降車ボタンを押す練習をした。K.J.、A.J.、S.A.、K.S.の順番で料金の支払い

の練習をする。

#### 動画 B (48 秒)

5 車庫見学 (00:00) …到着した場面撮影。講師からバスのお家で、使っていないバスを置いておくところと説明あり。その後、トイレと水分補給をする。

#### 動画 C (43 分 50 秒)

6 車庫見学開始 (00:00) …講師から、車庫見学時の注意点について説明を受ける。

7 点呼見学 (01:40) …バスの運転手の点呼の様子を見学する。講師から、学校の朝の会のようなもので体調や運転する路線を確認すると説明を受ける。アルコールチェックの様子を見学し、飲酒運転にならないように毎日やっていること。アルコールチェッカーでアルコールが検知され鐘がなる場面を見学した。

8 洗車機の見学 (06:22) …生徒達がガソリンスタンドで体験したことがある洗車機よりも大きいバス専用の洗車機を見学した。

9 整備工場の見学 (08:29) …バスの修理の様子を見学する。修理するためにバスの下に深い溝が掘ってあり、整備士の人がそこに入りながら修理している様子を見学した。

10 高速バスの見学 (10:40) …高速バスの見学。市内を走る身近な路線バスではなく東京や仙台など遠くまで走っていくバスであると講師から説明を受ける。

11 バス停工場の見学 (12:07) …講師が、町で見かけるバス停がこの場所で作られて運ばれていることを説明。

12 レトロバスの見学 (13:16) …講師が昭和 55 年に作られて今も現役で走ることができることを説明する。S.A.が座学のときに写真で見たことを伝えていたり、K.J.が昭和 55 年を西暦に変えていってみようとした様子が見られた。

(16:11) …S.A.が講師に「見慣れないバスがある」と質問をする。講師が、京都で走っていたバスを中古で買い取り、弘前市内で走れるように修理したりラッピングを変えたりしたことの説明を受ける。

13 清掃体験 (18:55) …講師が清掃体験を教えてくださいと講師を紹介する。最初にほうきで床を履き、次に雑巾で手すりや窓を拭くということを説明される。S.A.が自分からほうきを取りに行き清掃を始める。K.S.もゆっくりと動き始めてほうきの清掃をはじめていた S.A.が講師から「ほうきどうだった？」と聞かれると「結構大変だった」と答えていた。その後に、A.J.と K.J.がほうきを担当し、A.J.が塵取りでごみを集めていた。雑巾がけでも、S.A.が自分から動き始め、雑巾を濡らして絞りつり革を拭き始めた。K.S.もつり革から拭き始める。その後に各々が拭きたい手すりや窓を拭き始めていた。モップ掛けも体験し、A.J.と K.J.が後ろ半分、S.A.と K.S.が前半分を担当した。

#### 動画 D (01:30)

14 清掃体験終了 (00:00) …清掃体験の講師に対して S.A.代表で「教えてくれてありがとうございます」と挨拶をする。その後水分補給とトイレ休憩。

#### 動画 E (32 分 33 秒)

15 黄色と白のバスの見学 (00:00) …S.A.が黄色と白のバスを見たいと講師に伝え見学させてもらえることになる。車庫見学の途中に気になっていたとのこと。実際に近くまで見学に行き、講師から茨城県を走っていた貸切バスであると教えてもらう。整備工場では修理して弘前市内で走ると教えてもらう。その他にも、歩いている途中にある。水色のスクールバスや、青森市内を走っているバスを外から見学させてもらった。バスは洗車機で洗うが、洗ったままだと水垢がついてしまうので、洗車機では届かない場所は運転手が手洗いすると教えてもらい、生徒たちは自分たちがやった車内清掃と同じことを運転手もやるということを知り「え〜」と驚く様子が見られた (03:17)。弘南バスの古いラッピング (20 年くらい前) と現在のラッピングを比較していた (05:30)。



- 16 路線バスの利用方法の復習(07:40)…講師が乗り方について口頭で確認した後、S.A.、A.J.、K.S.、K.J.の順番で乗車する。K.J.は後ろの座席まで走って移動しようとするが、S.A.が走っちゃだめだよと教えてあげる(09:05)。S.A.が「83台も車庫にバスがあるのに驚いた」と発言する(10:51)。講師が「掃除をする人も一日に40～50台やると言っていたけど、みんなはできそう?」と問いかけるとS.A.が「むり」と答える(11:05)。S.A.が「手すりがおレンジ色なのはなんで?」と聞き「視力が弱いお年寄りの人とかが見わけが付きやすいように、オレンジ(手すり)と青(座席)の組み合わせになっている」と教えてもらう(14:53)。その他にも優先席の座席の様子が違うことや車いす用の座席もあることを教えてもらう。
- 17 降車ボタンを押す練習(25:16)…アナウンスを聞いて一人一人降車ボタンを押す練習をする。
- 18 車椅子用スロープの見学(28:05)…車椅子スロープを下ろし、車椅子用の座席を作る様子を見学する。
- 19 プレゼントをもらう(30:30)…バスの路線図や時刻表、自由帳などをもらう。
- 20 挨拶(32:24)…挨拶をして学校へ帰る。

#### IV 絵画分析

##### ●A. J. \*\*\*\*\*

図1と図2の比較により、A.J.は自分自身の描画やバスの拡大に加えて、タイヤを丸く描くことができるようになったことが示された。さらに、図2と図3の比較により、A.J.は自分自身の描画を拡大することができるようになったが、先頭部分の赤い四角形の描画の喪失が見られた。一方、タイヤを円形に描画することは継続されていることが示された。

この結果は、A.J.が恐竜に対する興味に偏っていることから推測されたとおり、タイヤという一部の偏った箇所に集中していたことを示している。A.J.が実車でのバスの乗り方教室を通してタイヤに注目し、タイヤを丸く描くスキルを獲得したことを示している。興味の幅が狭い生徒の場合、バスの乗り方教室でも偏った箇所を探究し学習の成果が表れることが示されている。

##### ●K. J. \*\*\*\*\*

図4と図5の比較により、K.J.はバス停を描画し、バスの形状を四角形に描画、タイヤの位置を離して描くようになる変化が示され、「レトロバス」と題名を付けていた。図5と図6の比較により、K.J.は自分自身の描画をし、バスを四角形に描画することを継続していることが示された。また、先頭部と中心部にある緑は、ドアとスロープであると考えられる。

これらの結果は、被験者がバス停やバスの描画において、全体をとらえる能力が学習成果に表れることを示している。具体的には、バスの形状を四角形で描画することにより、バスの全体をとらえることができたと考えられる。この能力は、体験したことを全体を雰囲気であらえ、それが描画に反映されたことを示している。

この結果は、K.J.の学習において全体をとらえる能力が重要であることを示唆しており、知識や技能を習得するだけでなく、全体をとらえることが必要であると考えられる。

##### ●K. S. \*\*\*\*\*

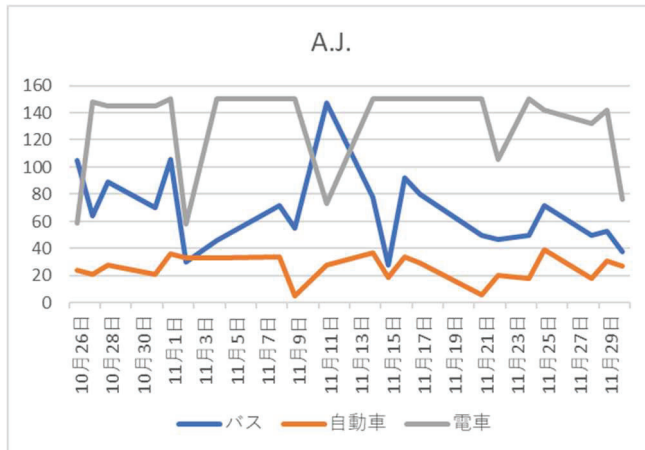
図7の絵画制作では、K.S.は完璧な描画を目指すあまり、描くことに躊躇する傾向が見られた。しかし、図8の絵画制作では、色を使用するようになり、他の生徒の描画にも注目するようになった。図9では、被験者は自分自身の描画を中心にいき、色の使用を継続し、弘南バスのデザインにも継続して注目するようになった。このことから、被験者は描画において色やデザインに注意を向ける傾向があることが示された。しかし、窓やマークの形、数の描画は各図とも継続したものはなく、あまり興味がなかったことが分かった。

●S. A. \*\*\*\*

図10に描いた絵画に比べ、図11では手すりやスロープの描画が正確になり、また自分自身を車内に描画するようになった。また、タイヤの描画には手前2本が描かれ、横から見たバスを描画したものと考えられた。さらに、図11から図12にかけての結果では、正確性は落ちたものの手すりやスロープの描画、自分自身を車内に描画すること、タイヤの描画ともに維持された。この結果から、被験者が体験して触れたものは描画に反映されるが、それを上手く空間的に配置して描くことができないことが分かった。

V 主観量評価（長さによる置き換え）

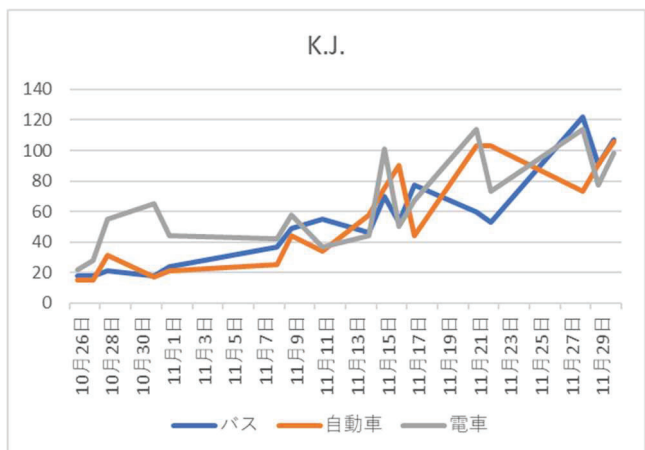
●A. J. \*\*\*\*



|         | 変数 1     | 変数 2  |         | 変数 1     | 変数 2  |
|---------|----------|-------|---------|----------|-------|
| 平均      | 72.75    | 58    | 平均      | 72.75    | 58    |
| 分散      | 719.6429 | 387.4 | 分散      | 719.6429 | 387.4 |
| 観測数     | 8        | 11    | 観測数     | 8        | 11    |
| 仮説平均と   | 0        |       | 自由度     | 7        | 10    |
| 自由度     | 12       |       | 観測された   | 1.857622 |       |
| t       | 1.318365 |       | P(F<=f) | 0.180575 |       |
| P(T<=t) | 0.105996 |       | F 境界値   | 3.135465 |       |
| t 境界値   | 1.782288 |       |         |          |       |
| P(T<=t) | 0.211991 |       |         |          |       |
| t 境界値   | 2.178813 |       |         |          |       |

・バスに対する好意の平均値減少（事前群 72.75、事後群 58  $t$  検定（有意差なし）：  $t=1.318$ 、 $df=12$ 、 $p=0.211$ ）

●K. J. \*\*\*\*

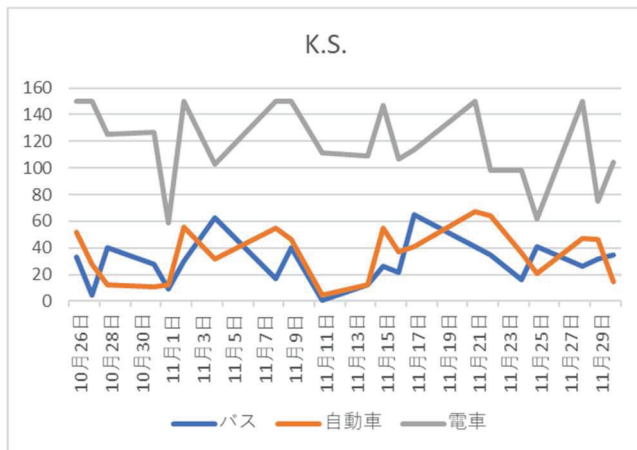


|         | 変数 1     | 変数 2     |         | 変数 1     | 変数 2     |
|---------|----------|----------|---------|----------|----------|
| 平均      | 22.66667 | 75.44444 | 平均      | 22.66667 | 75.44444 |
| 分散      | 55.06667 | 693.7778 | 分散      | 55.06667 | 693.7778 |
| 観測数     | 6        | 9        | 観測数     | 6        | 9        |
| 仮説平均と   | 0        |          | 自由度     | 5        | 8        |
| 自由度     | 10       |          | 観測された   | 0.079372 |          |
| t       | -5.68245 |          | P(F<=f) | 0.006327 |          |
| P(T<=t) | 0.000102 |          | F 境界値   | 0.207541 |          |
| t 境界値   | 1.812461 |          |         |          |          |
| P(T<=t) | 0.000203 |          |         |          |          |
| t 境界値   | 2.228139 |          |         |          |          |

・バスに対する好意の平均値増加（事前群 22.666、事後群 75.444  $t$  検定（有意差あり）：  $t=-5.682$ 、 $df=10$ 、 $p=0.0002$ ）

・バス、自動車、電車ともに均等に増加している。

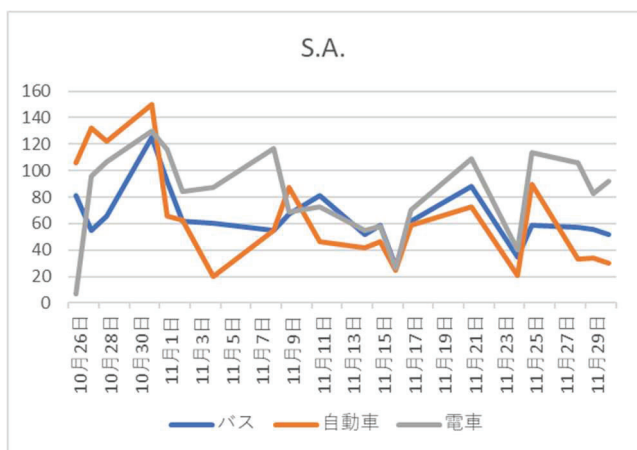
●K. S. \*\*\*\*\*



|         | 変数 1     | 変数 2     |  |  | 変数 1    | 変数 2             |
|---------|----------|----------|--|--|---------|------------------|
| 平均      | 28.125   | 31.90909 |  |  | 平均      | 28.125 31.90909  |
| 分散      | 344.125  | 209.6909 |  |  | 分散      | 344.125 209.6909 |
| 観測数     | 8        | 11       |  |  | 観測数     | 8 11             |
| 仮説平均と   | 0        |          |  |  | 自由度     | 7 10             |
| 自由度     | 13       |          |  |  | 観測され    | 1.641106         |
| t       | -0.48028 |          |  |  | P(F<=f) | 0.230201         |
| P(T<=t) | 0.319506 |          |  |  | F 境界値   | 3.135465         |
| t 境界値   | 1.770933 |          |  |  |         |                  |
| P(T<=t) | 0.639012 |          |  |  |         |                  |
| t 境界値   | 2.160369 |          |  |  |         |                  |

・バスに対する好意平均値の増加(事前群 28.125、事後群 31.909  $t$ 検定(有意差なし):  $t=-0.480$ 、 $df=13$ 、 $p=0.639$ )

●S. A. \*\*\*\*\*

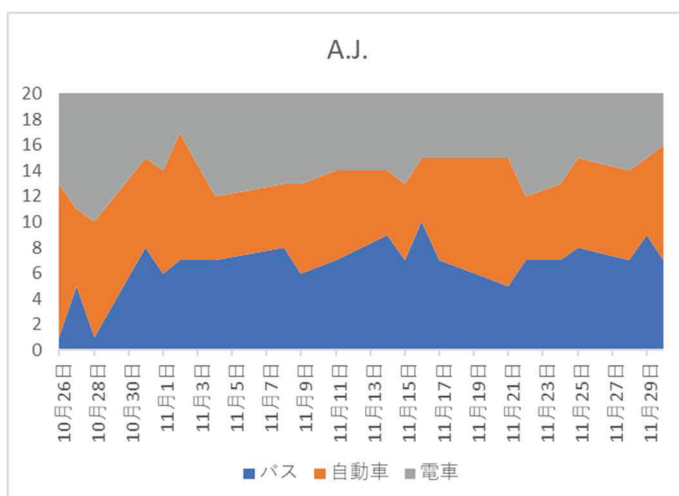


|         | 変数 1     | 変数 2     |  |  | 変数 1    | 変数 2              |
|---------|----------|----------|--|--|---------|-------------------|
| 平均      | 74.5     | 54.8     |  |  | 平均      | 74.5 54.8         |
| 分散      | 585.4286 | 257.9556 |  |  | 分散      | 585.4286 257.9556 |
| 観測数     | 8        | 10       |  |  | 観測数     | 8 10              |
| 仮説平均と   | 0        |          |  |  | 自由度     | 7 9               |
| 自由度     | 12       |          |  |  | 観測され    | 2.269494          |
| t       | 1.980183 |          |  |  | P(F<=f) | 0.125405          |
| P(T<=t) | 0.03554  |          |  |  | F 境界値   | 3.292746          |
| t 境界値   | 1.782288 |          |  |  |         |                   |
| P(T<=t) | 0.071081 |          |  |  |         |                   |
| t 境界値   | 2.178813 |          |  |  |         |                   |

・バスに対する好意の減少(事前群 74.5、事後群 54.8  $t$ 検定(有意差あり):  $t=1.980$ 、 $df=12$ 、 $p=0.071$ )

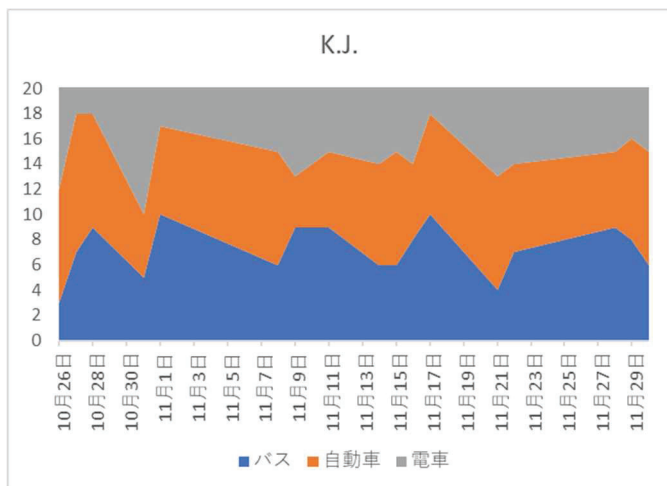
Ⅶ 主観量評価(容積による置き換え)

●A. J. \*\*\*\*\*



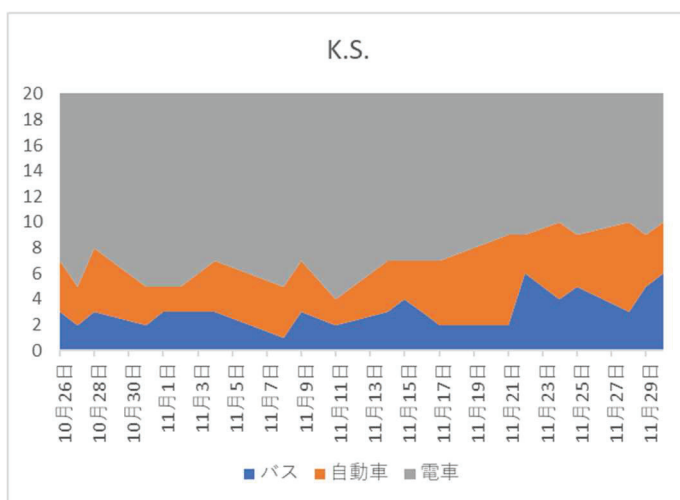
- ・バスの割合が増加しているように見える。
- ・電車の割合が減少

●K. J. \*\*\*\*\*



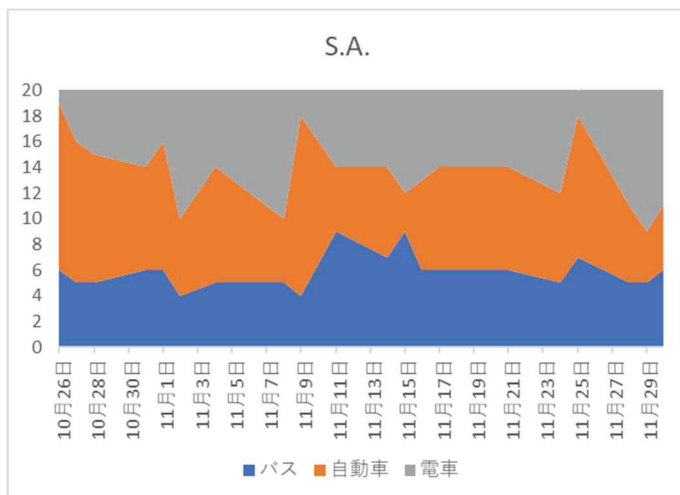
• 大きな変化はない。

●K. S. \*\*\*\*\*



• バスの割合が少し増えている

●S. A. \*\*\*\*\*



• 自動車に対する割合の減少

## Ⅶ 考察

●A. J. \*\*\*\*\*

A.J.は学校でルールやマナーを学習した際は、下をうつむきあまり関心をもてない様子であったが、模擬バスでの活動時に自分から降車ボタンを押してみたり、つり革につかまってみたりするなど活発に動き始める様子が見られた。主観量評価においては、長さによる置き換え、容積による置き換えに大きな変化は見られないが、絵画分析の中では、タイヤを丸く描くことの定着が見られた。A.J.は、恐竜に強い興味をもっ



ており、その他のものに関しては学習を進んですることは難しいが、講師とともに路線バスを見学し、清掃などの体験で触れた結果、バスの外観を把握しタイヤを丸く描く事へつながったと推測される。

●K. J. \*\*\*\*\*

K.J.はいろいろなものに注意が向いており、「このバスの中身はどうなっているの?」動画 E (08:34)」と講師に質問していた。絵画分析では、終了直後にバス停を描き「レトロバス」と題名を付けたり、バスの外形をしっかりと四角く描くなどの変化が見られた。主観量評価では、容積による置き換えに大きな変化が見られなかった一方、長さによる置き換えでは継続的に数値が増加していった。バスの乗り方教室の期間を通してK.J.の乗り物への興味が強くなってきており、事前では、外部講師との授業や、本物の路線バスに触れることへの期待感が徐々に表れ、事後ではその体験を通して得られたことが、外出をしたり、自分の力で移動したいという意欲として現れているものと推察される。

●K. S. \*\*\*\*\*

K.S.は、表情が硬く、学校での活動や校外での活動でも消極的な様子であった。しかし、講師から降車ボタンを押してみるように促されると、ゆっくりと押してみる様子や、運転手に自分から挨拶をする様子を見ると、K.S.のペースで活動には十分参加ができていた。主観量評価の長さによる置き換えは、分散は大きいもののバスに対する好意が増加しているし、容積による置き換えでもバスの割合が増えていることが確認できる。また、絵画分析においても色を使ってバスの絵を描くようになり、今回の講師との学習経験が着実にK.S.の中にあるバスに対するイメージを変化させていると言える。

●S. A. \*\*\*\*\*

S.A.は、学校、校外ともに積極的に講師にバスの洗車や種類に関する質問をしその仕事の大変さについて考えることができた。主観量評価の長さによる置き換えでは、バスに対する好意が減っているが、容積による置き換えでは、自動車への割合の減少が見られた。S.A.は現在自家用車による送迎で登校しているが、電車とバスの割合が増加していることを見ると、今回のバスの乗り方教室を通して、自分の力で登校したいという考えが現れてきているものと推察される。また、絵画分析では正確に座席を描くようになったり、つり革を描いたりするようになっており、本物の路線バスに乗ったり、近くでつり革を見ることができた経験が生きているものと考えられる。

## V 課題

### ○バスの乗り方教室の実践デザイン

本研究では、路線バスを現金で利用することを前提としたバスの乗り方教室を分析の対象とした。2023年2月25日より、弘南バスでICカード利用も開始され新しい実践へと更新する必要がある。

分析の対象とはしなかったが、表情分析 AI (py-feat) を活用し学校での活動と校外での活動の感情的側面のエンゲージメントを簡易的に比較したところ、生徒が主体的に活用している場面でエンゲージメントがプラスへと動いていた。このこともふまえ、講師が生徒に教える形態のバスの乗り方教室から、生徒が講師と一緒にバスの乗り方を考えたり、生徒があえてバスの乗り方教室の講師となりバスぶら博士と幼稚園や小学校へ教えに行く機会を設定するなど、生徒が主体となる実践デザインにしていきたいと考える。また、今回学んだバスの乗り方を、校外を移動するためのツールとして活かし、弘前市内を探索する学習活動を実施することも考えられる。

今後は、表情分析 AI を活用したエンゲージメント分析の詳細を別稿にまとめ、外部講師との学習活動で教師の学習意欲を高める働きかけや、講師と打合せを綿密に行い活動内容のブラッシュアップを行っていく。

## VI 参考・引用文献

岡崎 章 (2013)「主観量の評価ツール」『心理学評論』第 56 号 1 巻, 心理学評論刊行会, pp/129-142.





図1 A.J (2022年10月24日)



図2 A.J (2022年11月11日)



図3 A.J (2022年12月16日)

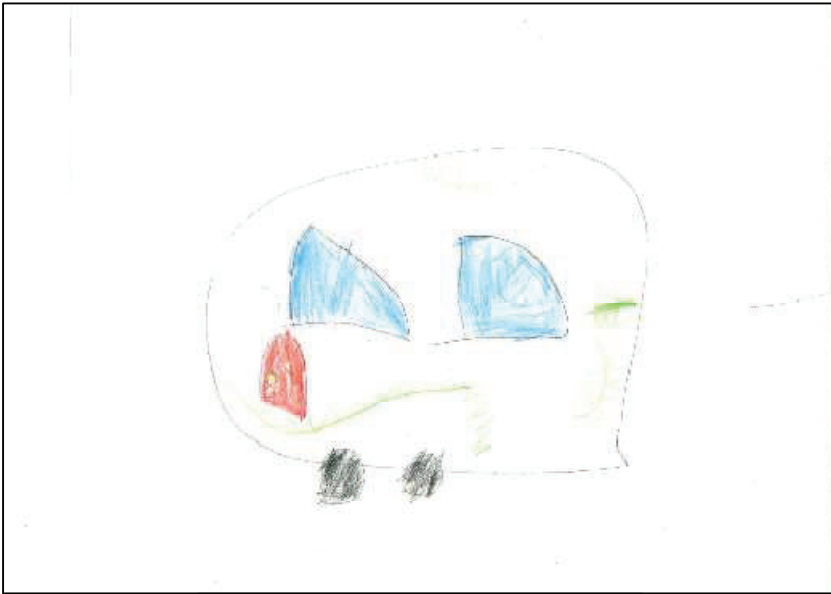


図4 K.J. (2022年10月24日)

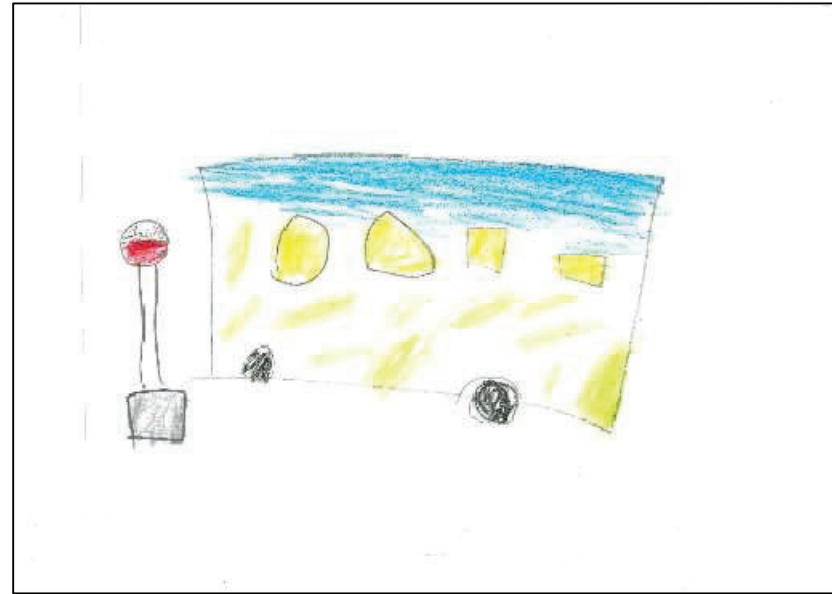


図5 K.J.レトロバス (2022年11月11日)



図6 K.J. (2022年12月9日)

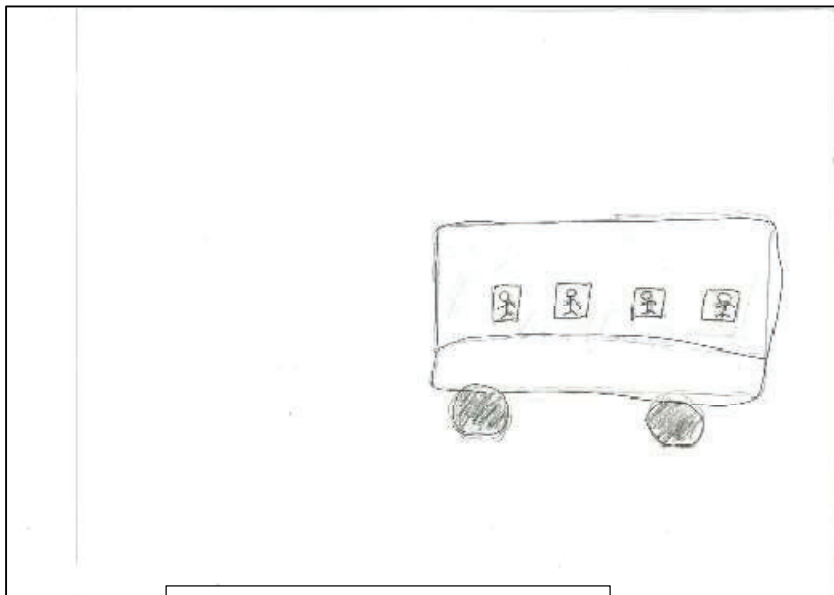


図 7 K.S. (2022 年 10 月 24 日)

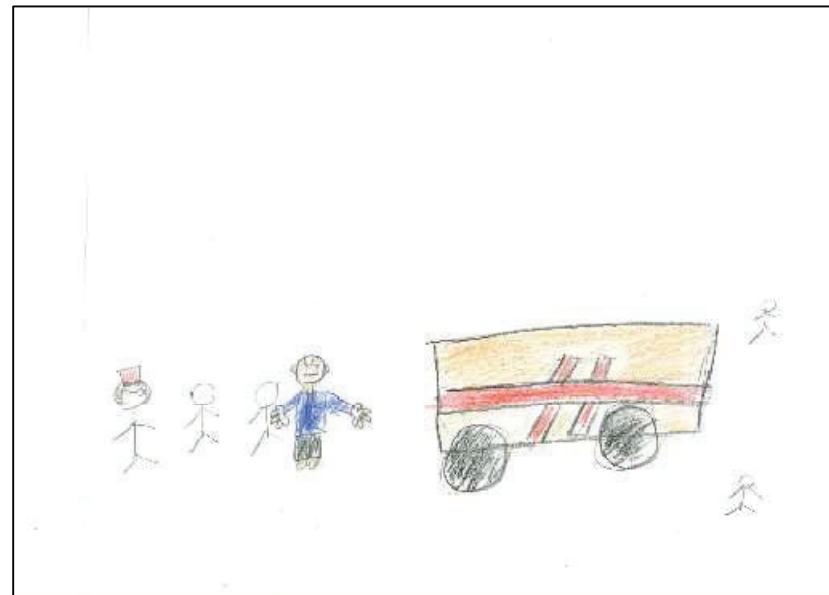


図 8 K.S. (2022 年 11 月 11 日)

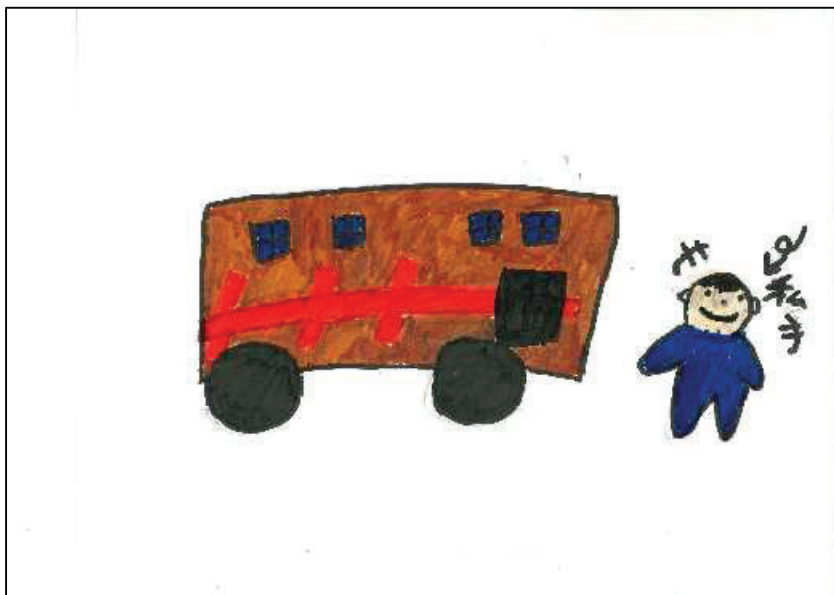


図 9 K.S. (2022 年 12 月 9 日)

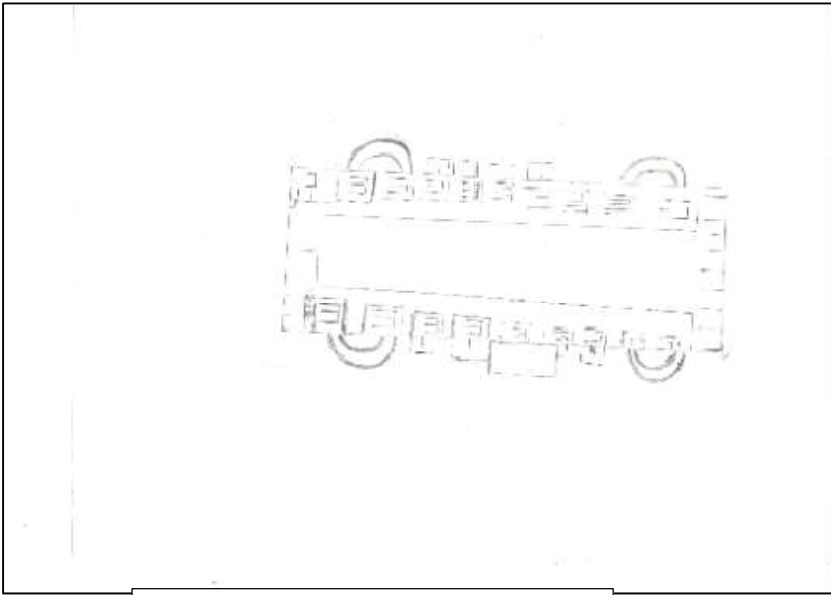


図 1 0 S.A. (2022 年 10 月 24 日)

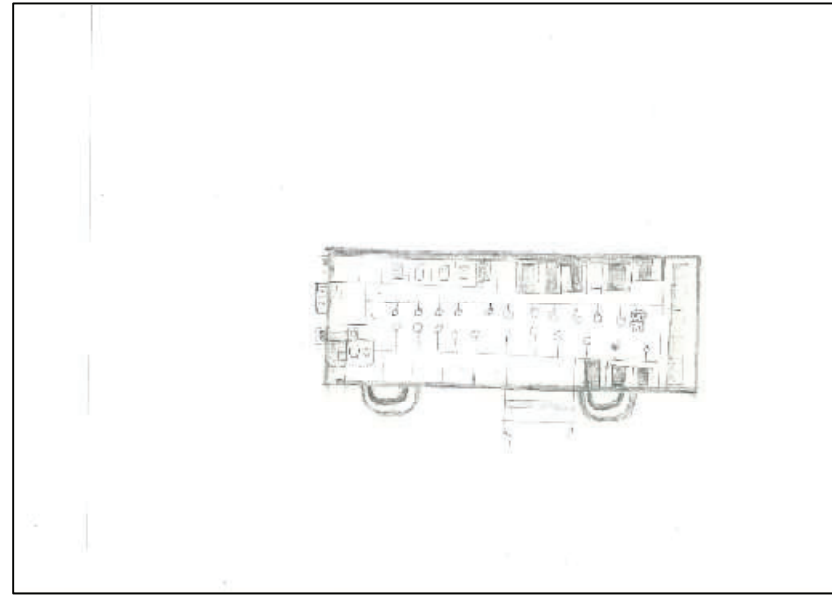


図 1 1 S.A. (2022 年 11 月 11 日)

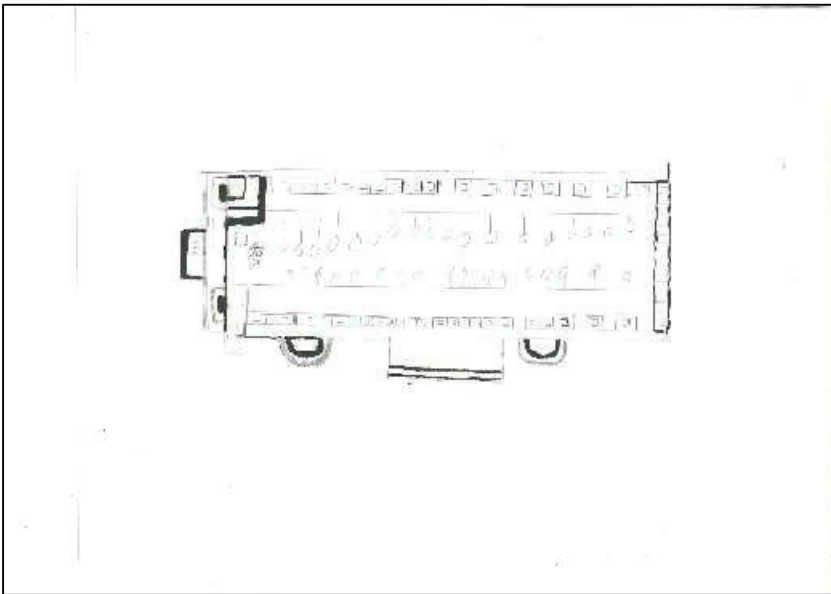


図 1 2 S.A. (2022 年 12 月 12 日)